

「みらいの森を育てようプラン」 ご寄附のお礼と使途のご報告

九州電力株式会社が提供する「みらいの森を育てようプラン」を通して
九電みらい財団を応援いただき誠にありがとうございます。

2025年に皆さまからご寄附いただいた1,246,500円は、
当財団が取り組む環境活動に活用させていただきました。



九電みらい財団は、2026年5月に設立10周年を迎えます。
これからも、よりよい九州の未来を創っていくための取組みを
進めてまいりますので、引き続き応援いただきますよう、
よろしくお願い申し上げます。



公益財団法人 九電みらい財団が取り組む環境活動



ずっと先まで、明るくしたい。

2025年 九電みらい財団の活動のご紹介

九電みらいの森プロジェクト

「いさはや九電みらいの森（長崎県諫早市）」及び「きりしま九電みらいの森（鹿児島県霧島市）」で、地域の皆さまとの協働による環境教育のフィールドや地域の憩いの場となる森づくり「九電みらいの森プロジェクト」に取り組んでいます。

また、本プロジェクトの第3弾として、福岡県糟屋郡久山町で九州北部エリアの拠点となる新たな森づくりがスタートしました。

【いさはや九電みらいの森】

第1弾

長崎県の森づくり制度に基づき、長崎県、諫早市及び当財団の三者で締結した協定(2022年1月)を踏まえ、長崎県諫早市で森づくりを進めています。

2023年度までに計4,700本の植林を完了し、現在は、ボランティアや環境教育を通じた育林活動を実施しています。

今年11月には、育林ボランティア活動として、諫早市、長崎大学の学生、九電グループおよび地域の皆さまなどの協働により、森や園路等の除草を行いました（60名参加）。



ボランティア活動の様子（11月）

【きりしま九電みらいの森】

第2弾

霧島市、鹿児島県、九州電力(株)鹿児島支店及び当財団の四者で締結した協定(2024年1月)のもと、鹿児島県霧島市で森づくりに取り組んでいます。

ウッドデッキや散策路など、地域の皆さまに気軽に足を運んでいただくための整備に加え、散策路沿いの土留めとなる“しがらみ”づくりなど、自然工法を取り入れた育林活動を行っており、今年11月には、初めての植林(広葉樹)ボランティアも実施しました（80名参加）。



しがらみづくりと植林の様子

【ひさやま九電みらいの森】

第3弾

11月27日、久山町、九州電力(株)福岡支店及び当財団の三者で「森づくり協定」を締結し、福岡県糟屋郡久山町で「ひさやま九電みらいの森」の整備に向けた準備を進めています。

「ここから始めるHISAYAMA WELL FOREST」をコンセプトに、Learning(学ぶ)、Saving(守る)、Healthy(健康)の観点から、地域の方々が日常的に足を運べる散策路や環境教育等でも活用できる広場、案内サインなどを整備していきます。2026年秋頃から小学生向けの環境教育やイベントなどを開始する予定です。



協定式の様子と森のイメージ

坊ガツル湿原一帯での環境保全活動

【坊ガツル湿原野焼き・希少植物保護活動】

ラムサール条約に登録されている「坊ガツル湿原（大分県竹田市）」。かつて、野焼きが途絶えて荒廃が進んでいましたが、元の美しい自然や風景を取り戻すべく、1999年に九州電力大分支店主導のもと、地元自治体や企業、団体等で「坊ガツル野焼き実行委員会」を立ち上げ、2000年に野焼きを再開し、今年で26回目の野焼きを実施しました（3月）。

また、九電グループの従業員等を中心に、湿原に植生する希少植物を保護する活動も実施しました（7月）。

※ 野焼きは、害虫を駆除し植物の芽吹きを促すことを目的に湿原を焼き払う作業です

[坊ガツル湿原野焼き]



本焼き(3月)



輪地切り(8月)



輪地焼き(9月)

[希少植物保護活動]



(7月)

【ミヤマキリシマ植生保護活動】

九州各地の高山に自生する「ミヤマキリシマ」は、世界でも九州にしか分布していない希少な植物です。大分県くじゅう連山の1つ「平治岳」も有名なスポットであり、5月下旬～6月上旬に一斉に花を咲かせる様は、ピンク色の絨毯のようでとても美しく、迫力があります。

しかし、近年、ノリウツギ等の樹木に被圧され、くじゅう地域でも数が減ってきています。この希少で美しい花を守るため、当財団は、地域の皆さんとともに生育の支障となる木の伐採や登山道を整備する植生保護活動を行いました（4月、11月）。



ミヤマキリシマの開花の様子



支障木の伐採(4・11月)



登山道整備(4・11月)

【活動実績】

		内 容	実施月	参加者数
坊ガツル湿原(約53ha)				
野焼き活動	本焼き	防火帯の内側に火を入れ、湿原一帯を焼く	3月	123名
	輪地切り	野焼きの際の延焼防止のための防火帯づくり	8月	152名
	輪地焼き	防火帯に新芽が出ないよう、刈った草を焼き払う	9月	159名
希少植物保護活動		湿原の希少植物保護のため、外来種植物を除去	7月	108名
平治岳(約20ha)				
ミヤマキリシマ植生保護活動	春	ミヤマキリシマの植生を保護するため、生育に支障となる低木等を伐採。あわせて登山道整備も実施	4月	98名
	秋		11月	86名
合 計				726名

環境教育

【現地体験型環境教育】

子どもたちの環境保全意識を啓発するため、「くじゅう九電の森（大分県由布市）」、「いさはや九電みらいの森（長崎県諫早市）」、「きりしま九電みらいの森（鹿児島県霧島市）」にて、間伐や森林観察などの体験型環境教育を行っています。



くじゅう九電の森

【デジタル環境教育】

ヴァーチャルリアリティ(VR)機器を活用し、学校にいながら森林管理の一つである“間伐”を体験できる「デジタル環境教育」を実施するほか、九州各地で開催されるイベント等にも出展し、教育機会の拡大に努めています。



いさはや九電みらいの森

【活動実績】

活動内容	実施月	実施校	回数	人数
くじゅう九電の森(学校向け)	5,9,10月	8校	6回	368名
くじゅう九電の森(親子向け等)	5月	—	1回	65名
いさはや九電みらいの森(学校向け)	10,11月	11校	10回	520名
いさはや九電みらいの森(親子向け等)	10月	—	1回	112名
きりしま九電みらいの森(学校向け)	3,5,9月	5校	5回	132名
きりしま九電みらいの森(親子向け等)	6月	—	1回	106名
デジタル環境教育	通年	—	64回	1,921名
合 計	—	—	88回	3,224名

(12月1日時点推定)



きりしま九電みらいの森



デジタル環境教育出前授業

次世代育成支援活動

九州各地で「子どもたちの自然を大切にする心を育む活動」に取り組むNPO団体等に対する助成を行っており、2025年度は20団体に助成しています。

※2026年度の助成団体については、今年11月～12月に募集



助成先団体の活動の様子

情報発信

当財団の取り組みを知るために、活動の様子をHPやSNSで情報発信しています。

また、九州の豊かな自然を再認識することで環境保全意識を醸成してもらうことを目的に、Instagramのフォトコンテストを開催しており、応募作品の一部は「みらいの森を育てようプラン」の寄附のお礼としてお送りするカレンダーに掲載していますのでご覧ください。

是非ご覧ください♪



Facebook



Instagram